

品川支部

令和七年2月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

2月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

次の春季大祭は いよいよ教祖百四十年祭

先月二十六日は晴天に恵まれた日曜日の春季大祭

あと一年に迫った教祖百四十年祭の前年に相応しく境内いっぴいの人で溢れるよう到来年のその日が楽しみでした
お話もおちば帰りへの急き込みがメインテーマのようでした
この一年、なんとか沢山の方と共に一回でも多くおちばを賑やかに致しましょう
大勢の教友の姿を見るとうれしく元気になりますよ



立教百八十八年春期大祭

☆支部行事のお知らせ

- ・支部例会二月二十八日(金)
会場 鶴平分教会 (詳細は二頁参照)
- ・幹事会二月九日(日)
都南分教会にて 六時から
みんなでひのきしん
- ・百四十年祭三年千日の三年目、
東京教区活動方針の、「みんなでひのきしん」に
多数の方のご参加お待ちしております
大井在宅介護センター
今月は二月二十五日です
神名流し
二月一日です

☆教務支庁からのお知らせ

- ・少年会から
第五十一回「鼓笛バンドコンクール」は
二月二十四日 日野市神明一丁目十二の
「ひの煉瓦ホール」で行われます日頃の少年
会員の頑張りを「覧下さい」
- ・婦人会・青年会から
東京教区青年会総会・女子青年大会が
二月二十三日同時に教務支庁にて開催さ
れます

・第四回「ようぼく一斉活動日」

第四回目の「ようぼく一斉活動日」
の日にちと会場が確定致しました
品川支部では過去三回、参加人数
が増えており、三年千日の最後の年
で、残り二回となりました。
是非最後の五回目まで参加の方に
大勢来て頂けますよう頑張ってください
ますので宜しくお願い致します
日にち 五月三十一日
会場 都南分教会

・関連情報

・ようぼく一斉活動日は昨年まで
に三回が開催されました
第一回目は全国で
七万四千八百人あまり
第二回目は
六万七千九百人あまり
第三回目は
六万二千五百人あまり
と、少しずつ動員数を減らせてい
る様です
今回のようぼく一斉活動日は
五回全部受けて頂くことが前提
ですので、次回もお声掛け頂き
ますようお願い致します

拠点教会	5日号	12日号	19日号	26日号
日本橋	直送	手配り	手配り	手配り
本荏	直送	手配り	手配り	手配り
南泰	手配り	手配り	手配り	直送
三ツ木	手配り	直送	直送	手配り
水豊田	手配り	直送	手配り	手配り

時報手配り二月予定

品川支部例会

令和七年2月28日 (金)

11時開始

場所 鶴平分教会

(品川区西大井二丁目12の6)

内容 おつとめ よろづよ八首二下り

東京教区、支部連絡事項

当該教会 平林会長挨拶

昼食の用意あり

*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



先入観



昨年秋。とある講社で講社祭を終えて直会が始まった時のこと、気を遣って娘さんとお孫さんが仕切りを隔てた処で、レールに電車を載せ遊ばせておりました。耳を傾けるとそのお孫さんが、「ガタンゴトン・ガタンゴトン・ガタン」と電車で遊んでおりました。

『おや？ガタンゴトンの連続の後、何故ガタンゴトンで終わらないの？』

私は不思議に思ったので、そのお母さんに

「最後までガタンゴトンで終わるんじゃないの？」

その問いに、娘さんは

「私も電車が出す音は何も疑わず、ガタンゴトンと思っていたんですが、気にして聞いてみると、最後の通過する電車は息子の言う通り、ガタンゴトン・ガタンなんですよ」

その後改めて私も西大井の駅で注意深く聞いてみると、いかに

自分が先入観や固定観念に縛られていることに気付いたと共に子供の純粹さを感じたところとなりました。

大部昔になります。東本大教会の初代・中川よし先生

の逸話で、

『布教師が、とある長屋で身上者に対して、心定めとしてその方が寝ていた布団を、お供えさせてもらいなさい、との事。相手は納得出来なかったが、狭い部屋から煎餅布団を大教会迄運び、参拝場の隅に置かれた、あまりにも薄汚れた布団であったので、布教師も遠慮されたのだろう。それが中川先生の眼にとまり、心定めで供えた品物を粗末に扱う事を戒められ、神殿に供えた後に新しく仕立てられた布団一流れを、その布教師は長屋のおたすけ先に運んだ。信者は、「なんて天理教は酷いことをするんだ」と憎んだぞうだ。それが一転、フワフワの真新しい布団が眼の前に届いた。布教師は昨夜の中川先生の一連の話を身上者に伝えると、「ああ、申し訳なかった」と改心すると共に、二人で咽び泣きされたと云う。

人間の心と云うハあざのふて

見えたる事を

ばかり云うなり

おたすけでは第一印象や先入観が邪魔する事がある。

昨年の十二月に教養掛の折に、二ヶ月前の十月修養科千

期で所属教会は違うが私の縁者でもある入課者一名が私の縁

生のときであった。その方と時期が当たる事は判っていたが、

実は少し苦手なタイプであった。ない天理教の本筋を再度発見人は良いのだが、声が大きく、

私から見るとデリカシーに欠ける。と言うあまり良くない印象の先入観があった。

そこに、十一月末に年をまたぐ修養科生が入学。十二

一・二月の女性の方である。もう一方、教会長資格検定

の方も入学して賑やかになったが、その三期生はこの二か月間

一人で修養生活を頑張ってきた事は判っているが、数十年前に結婚式で彼と知り合いながら会う度に印象が頗る良くな

印象になった。

こんなに純情で人に思いやりがあり他の修養科生から慕われ本朝つとめではあ

ちこちの修養科生から挨拶され、又ひとからは、彼の言

動そのものが人を勇まさせるものだったと聞き及んだ。

僅か三ヶ月の修養科期間で私は見た目や先入観で判

断される世の中に、そうでは

最後に『天理教教祖伝逸話 篇』一〇七 クサはむさいも

の【は端的に相手に対しての教祖のひながたが見えるので

ある。ある。ある。ある日の産経新聞の朝刊で野

党を辛辣した社説に「牽強付

会(けんきょうふかい)の四文字熟語があった。改めて先入観を持たず、牽強付会を

鶴平分教会長

平林典道